

トレッドミル負荷心電図検査

概要

運動することによって心臓に負担をかけ、安静時では分からない異常を見つける検査です。マスター負荷心電図検査とは異なり、運動中も心電図・血圧の変化を記録します。

検査方法

初めに安静時の心電図波形・血圧を記録します。医師立ち合いの下、トレッドミル（ランニングマシン）の上を歩行（走行）していただき、運動中・運動終了後の心電図・血圧の変化を記録します。

検査で分かること

1. 心臓に栄養を与える血管に異常がないか

運動によって心臓はより多くの血液を全身に送り、心臓自身の筋肉にもより多くの血液を必要とします。心臓に栄養を与える血管（冠動脈）が細くなったり詰まっている場合、十分な血液を送ることができず、心臓の筋肉がダメージを受けてしまいます。運動前後の心電図の変化から異常の存在を見つけます。

2. 運動中の脈の乱れがないか（不整脈）

運動によって心拍数が増えることにより、不整脈が現れるかどうか、またその頻度の変化を調べます。

注意事項

- ・上半身の衣服はすべて脱ぎ、検査着に着替えていただきます。スカートやワンピースなど、運動に支障がある場合は検査着（ズボン）に着替えていただきます。
- ・靴下は脱いで素足になっていただきます。運動靴の使用を希望される方は室内用をご持参ください。

所要時間

約 40 分程度

よくある質問

Q：運動量はどのようにして決めるのですか？

この検査はトレッドミルの上を歩行（走行）していただきますが、トレッドミルの速度と傾斜を上げていき、徐々に負荷を強くしていきます。運動時間は患者様によって異なり、年齢から計算される「目標心拍数」に達するまで行われるため、走るまで運動をしていただく場合もあります。

※ただし、「これ以上続けられない」と判断された時点で終了する場合があります。

Q：普段、運動を全くしていないため、体を動かすことが不安なのですが、大丈夫でしょうか？

A：患者様の状態に合わせて、トレッドミルの速度や傾斜の調節は可能です。担当技師にご相談ください。

Q：運動中に胸の痛みや違和感が現れた時はどうすれば良いのですか？

A：運動中、担当技師が症状について定期的に確認を行いますが、症状が現れた際はすぐに申し出てください。場合によっては検査を中止することもあります。

